

地方 民鉄 紀行

箱根登山鉄道株式会社



山肌に張り付くように、
登山鉄道は急勾配を
ぐんぐん登る。

その道筋のあちこちに、
「景色のおみやげ」が待っている。

火

山活動が活発化したことから、一時は入山規制も行われていた箱根山。観光への影響が心配されていたけれど、1年以上が過ぎた今、噴火警戒レベルは平常。箱根湯本で出発を待つ強羅行きの箱根登山電車は、当然のように満員御礼。

見たい景色は、どこから見える？

車内は通路まで乗客がぎっしり。大半は観光客で、その半数以上が海外からのお客さま。右側からは英語、左側からは中国語、後ろからは？語。ワイワイガヤガヤ沸き立つような賑やかさ。多少、窮屈ではあるけれど、「遊びに行きます！」という楽しい雰囲気の中、音楽のようにしか聞こえない外国語に包まれているのは面白い。とはいえ、満員の車内では、立ち位置を変えることが難しい。沿線の車窓に見たい景色があるのだけれど、進行方向左側のドアの傍、このポジションから果たしてそれが見られるのか。そわそわ外を眺めていると、車内アナウンスが、そろそろ出山鉄橋を渡ることをお知らせしてくれる。

山間を流れる川の上にかかる緑色の出山鉄橋と、そこを渡る赤い電車。「景色もおみやげにどうぞ」という言葉と共に、箱根登山電車のパンフレットの表紙を飾る景色。そのおみやげは、是非ともほしい。もちろん、自分が電車に乗って見たいことはできない。見える場所を探して歩き回るのも、急勾配の箱根山では大変そう。でも、鉄橋を渡ってすぐのところ、電車はスイッチバックをす

る。そのポイント、出山信号場からは鉄橋が見えるという、期待して来たのだけれど、さて、どちら側の車窓から見えるのか。

電車がゆっくり出山信号場に入って行き、結果は、左側で大正解。目の前のドア窓から遠く斜め下、山の緑に埋もれるように、同じく緑の鉄橋が見える。パンフレットの写真とは角度こそ違いつつ、まさにあの景色。あとは、電車が走って来れば完璧！と想着て、はたと気付く。信号場に電車が止まっているうちは、次の電車は来られない!!

「来ないかなあ、無理かなあ」。諦め切れずに鉄橋を凝視するこちらをよそに、運転士と車掌が入れ替わり、スイッチバックの準備完了。電車はあっさり出発進行。

登山電車の足元は

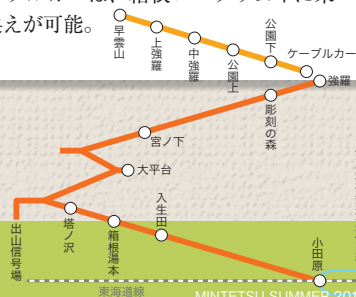
箱根湯本の標高は96m、強羅は541m。東京タワーがすっぽり入る、445mの標高差。電車はかなりの急勾配を登っているはずなのに、それほど急な感じがしない。

「スイッチバックのおかげかな」と何気なく、線路の方に目を落としてみると。山肌に張り付くように敷かれた線路、その幅の分しか地面がない？ 遠くの景色ばかりを見ていて、足元の急斜面に気付かなかった。気付いた途端に高さを感じ、斜面から目が離せなくなる。しかもその狭くて急な線路の上で、前の車両の姿が後ろの車両の窓からしっかり見えるほどのカーブを曲がる、曲がる。「うわっ、ギリギリ。今、ギリギリだった」。登山電車らしい急勾配をしっかりと堪能した

箱根登山鉄道

【はこねとぎんてつどう】

小田原から強羅まで、登山鉄道は527メートルの標高差を3度のスイッチバックを行い登る。強羅から早雲山を結ぶケーブルカーは、箱根ロープウェイに乗り換えが可能。



(左) 信号場で降りられるのは、運転手と車掌だけ。(右) 出山信号場から見える出山の鉄橋。



サンドイッチは見た目以上にボリューム満点。



彫刻の森駅から強羅駅までは、電車が道路の真横を並走。

サンドイッチは見た目以上にボリューム満点。水横に建つ真新しい白い建物。数種類のサ

桜、紫陽花、バラ、紅葉…四季折々の花が
楽しめるという強羅公園。けれども、紫陽花
の盛りが過ぎた今、公園の主役は花より緑。
緑、黄緑、深緑、多種多様な緑色が、名残の
バラや紫陽花の色を席巻。華やかではないけ
れど、生命力の塊のような迫力のある景色は
夏の空気によく似合う。緑、緑のグラデー
ションを潜り抜け、園内を一巡りしてお昼を
食べに、お店へ向かう。今日のお昼はサンド
イッチ。

ところで、彫刻の森駅で途中下車。
彫刻の森駅から終点の強羅駅までの一駅間
は、線路と道路が平行している区間。走る電
車の姿を見るには、やっぱり1駅くらいは歩
いてみないと。坂道覚悟で歩き出して拍子抜
け。道は平らで、楽々歩ける。それもそのほ
ず、この区間の標高差はわずか3m。傍らを
走り抜けていく電車も、急斜面を走るときよ
り足取り軽く、スピードも速くなっているよ
うに見える。

サンドイッチ、サンドイッチ

強羅駅までは1km弱。真っ直ぐ歩けば10分
足らずで着く距離だけれど、当然、寄り道。

それは今日の朝のこと。小田原から箱根湯
本に向かう電車の車内には、強羅公園にサン
ドイッチ料理のお店がオープンしたことを告
げる中刷り広告がずらり。頭上にひるがえ
る、見るからに柔らかそうなサンドイッチの
写真に、お昼はこれだと決めていた。
お目当てのお店は公園の中ほど、大きな噴
水の横に建つ真新しい白い建物。数種類のサ
ンドイッチの中から、緑とオレンジが鮮やか
な、アボカドとニンジン

のほとんどは途中下車することなく、終点の
早雲山まで乗車し、ケーブルカーを降りる
と、当然のように箱根ロープウェイへの乗り
換え口に進んで行く。
早雲山から大涌谷などを通って、芦ノ湖の
辺にある桃源台までを結ぶ箱根ロープウェ
イ。火山活動の影響で運休していた早雲山
大涌谷間の運転が再開し、ロープウェイ全線
の運行が再開になったのは、ほんの数日前。
正直、今回、大涌谷には行けないものと諦め
ていたのに、何て幸運。箱根といえば大涌
谷。行けるなら、行かないわけにはいかない
でしょう。

「景色のおみやげ」もらいに行きます
強羅からは箱根ケーブルカーに乗車。乗客
のほとんどは途中下車することなく、終点の
早雲山まで乗車し、ケーブルカーを降りる
と、当然のように箱根ロープウェイへの乗り
換え口に進んで行く。

「景色のおみやげ」もらいに行きます

期待通り柔らかなサンドイッチは、見た目
以上にしっかりとしたボリューム。このサン
ドイッチは軽食じゃなかった。重くなったお
腹を抱えて、強羅の駅へ向かう。



ロープウェイからは、大涌谷も見下ろせる。



強羅公園はフランス式庭園。サンドイッチのお店は噴水の横に。